

題名 子どもに身近な環境問題討論会

1. 学習のねらい

普段、何気なく見過ごしていたり、これまで当たり前としてなされてきたことに対して、今一度立ち止まって考え、環境問題という視点で認識を深めたり、考え方を変更したり、または一部修正したりするきっかけを作ります。

2. 実施について

(1) 実施時期：1年を通して可能

(2) 実施場所：普通教室

(3) 指導時数：1時間程度

(4) 指導対象：全学年で可能ですが、内容によっては発達段階を考慮して下さい。

3. 準備するもの

(1) 新聞やテレビのほか、学校や地域のなかで、身近な討論の課題を見つけておきます。

朝の会での話や普段の会話、テレビで見たことなど、どんなことでもよいので、まずは身近な問題から取り上げればよいでしょう。また、この学習の目的としてではなく、子どもたちと外に出たときには、いろいろな気づきを大切にしたいものです。

(2) 見つけた課題を一覧にしたものを印刷して資料とします。

(子どもたち全員に配布し、その問題を共通理解します。)

<事例>

公園の大きなクスノキが、「落ち葉が多くて掃除が大変だ。」との理由で切られてしまった。
(または、そんな計画がある。)

近くのため池で、ブラックバスを釣る人が増えてきた。

登校の途中、ツバメのひなが落ちていたので、児童が学校に持ってきた。

校庭のソメイヨシノに発生した大量のオビカレハの幼虫(毛虫)を、先生が殺虫剤で駆除した。(または、しようとしている)

田んぼの横のコンクリートの溝が干上がって、フナがたくさん死んで干からびている。

町に出てきたツキノワグマが撃ち殺された。

学校で飼っているウズラが大きなアオダイショウに飲まれた。(または、その場面に直面している。)

河川敷の運動公園の周りに広いコスモス畑ができた。(または、すでにある。)

飼っているカマキリに、えさとしてバッタをあげた。

近くの雑木林で、外国産のクワガタムシが採れた。

4. 学習の進め方

(1) まず、何について、何を視点にして話し合うかを確認します。

例えば、 のコスモスであれば、まず「きれいになってよかった。」という肯定的なことから入ります。この作業をして下さった方にも感謝の気持ちを持たせたいと思います。次に、「しかし・・・」というところから本題に入ります。まず、このコスモスを植えるた

めにどんなことをしたかを想像させます。「その植生を破壊したこと」、そして「大量の園芸用土を搬入したこと」などです。

そして、このコスモスはこれからどうなるかを考えさせます。冬が近づき、種ができる頃には、放置され大量の種が風に飛んでいきます。そんなことは、「コスモスの花を愛でている」だけでは気づかないことです。よって、指導者が提示する必要があります。

また、のアオダイショウのことであれば、まず「アオダイショウとしては、全く悪いことはしていない。」ということの確認をします。アオダイショウは、ただ餌を食べただけに過ぎません。ウズラを食べなければ、アオダイショウは空腹のまま過ごさなければならぬし、さらに次の獲物を探すことに労力を費やさなければなりません。「ウズラがかわいそう。」という一面だけではなく、アオダイショウの側に立った考え方もできるような指導が必要です。

5. 実施上の工夫・留意点

- (1) どんな課題についても、「他者理解」を基本にします。一方的な考えばかりではなく対立意見が生じるような討論にしなければなりません。
- (2) 結論を出してはいけません。「いろいろな考えの人がいるんだ。」ということ子どもたちがわかることに大きな意義があります。
- (3) 児童の保護者などが、その事柄に直接関わっているような場合は、なるべく扱わないようにします。

【資料】 予想される児童の考え方（対立意見を含む）

| 番号 | 肯定的な意見 | 否定的な意見 |
|----|--|--|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> ・ すっきりして明るくなった。掃除も楽になった。 ・ 大きな木はいくら枝を切ってもすぐに茂るから大丈夫。 ・ 虫も付かないし、鳥が糞を落とすこともない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ いままで何十年何百年も生きてきたのにかわいそうだ。 ・ 植物は光合成をし、酸素を提供してくれているのに・・・ ・ 木は人に安らぎを与え、動物にはすみかや食べ物を与えてくれる。 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> ・ ルアー釣りは楽しい。キャッチアンドリリースはアングラーのマナーだ。 ・ みんなそれぞれ趣味を楽しんでいるのに、バスのことだけ非難されるのはおかしい。 ・ めったに人が行かない、山の中の池なら誰にも迷惑をかけない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来種を無責任に放流するのは、生態系の破壊だ。 ・ 琵琶湖をはじめとして、多くの漁業被害が出ている。 ・ もともと日本にいた魚が絶滅しかけている。 ・ マナーが悪すぎる。金網を破ったり、ラインを捨てて帰ったり。 |

| | | |
|---|---|---|
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそうだから助けてあげた。いいことをした。 ・親鳥はひなを助けてあげられないのだから、人間が助けてやらないと・・・ ・動物を愛護することは大切なことだ。愛鳥週間というのものもある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これも自然の掟だ。人間が手を出すことではない。 ・いなくなったひなを親鳥は命がけで探しているはずだ。 ・落ちたひなはへびやけものえさになる。仕方のないことだ。 |
| ④ | <ul style="list-style-type: none"> ・気持ち悪い毛虫を退治したので、また春にはきれいなサクラが咲く。 ・誰だって毛虫をかわいがることはしない。こんなことは当然のことだ。 ・毛虫が毒があるから、刺されると痛い。害虫なのだから退治して何が悪い？ | <ul style="list-style-type: none"> ・毛虫はサクラの葉をえさを食べているだけ。何が悪いんだ。 ・毛虫には毒があるというのは、人の思いこみだ。毒のある毛虫は少しだけだ。 ・毛虫もそれを食べる生き物にとっては大切な食べ物だ。 |
| ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートの溝は掃除が楽だ。魚のことより米作りが優先だ。 ・溝掃除をする身にもなってみろ。君がしてくれるというのか。 ・カエルやメダカがいて何の役に立つんだ。 ・この溝は米作りのために作ったものだ。動植物のためではない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・魚の生息場所がなくなる。越冬場所もなくなる。用水じゃなく、ただのドブだ。 ・水田や溝は、ひとつの自然環境だ。そこには多くの生物が生きているんだ。 ・生き物のいない溝より、たくさんの生き物が暮らす溝の方が人の心が和む。 |
| ⑥ | <ul style="list-style-type: none"> ・人に危害を加えたらいけないので殺した方がいい。これで安全にらせる。 ・クマなんか別にいなくても人の暮らしには何にも関係ない。 ・町に出てきたクマを殺しても、山には、まだまだ、たくさんいるじゃないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然林を伐採したから、クマのえさがなくなったんだ。もとは、人間が悪いんだ。 ・クマは食物連鎖の頂点だ。クマがいることは自然が豊かという証だ。 ・クマは減っているんだ。このままでは絶滅する。シバグリを植えよう。 |
| ⑦ | <ul style="list-style-type: none"> ・ウズラを助けてあげて安心だ。へびは気持ち悪いから退治すればいいんだ。 ・へびはウズラより強い。弱いウズラを助けるのは当然だ。 ・ウズラは飼っていたけど、へびは勝手に入ってきたんだからへびの方が悪い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・へびだっておなかがすいていたんだ。へびはえさを食べたただけだ。 ・へびに狙われるような飼い方をしていた人間に責任がある。 ・へびはネズミを食べるなど、人の役にも立っている。 |
| ⑧ | <ul style="list-style-type: none"> ・コスモスがきれいだ。みんな喜んでいる。 ・きれいにすれば、ゴミを捨てる人がいなくなる。 ・いろとりどりの花を植えた方が、もっときれいになっていい。 ・花屋さんや造園業の人の仕事が増える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コスモスを植えるために、周りの環境を破壊している。 ・よそから持ち込んだ土に、ここには生えていなかった草の種が混じっている。 ・化学肥料や殺虫剤が環境に悪い。 ・花が終わった後、たくさんの種ができて、それが辺りに散らばってしまう。 |

| | | |
|----------|--|---|
| <p>⑨</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・カマキリにむしゃむしゃ食べられて、バッタがかわいそうだ。 ・もっと他のえさをあげた方がいい。生きているのをたべさせるのは、むごいことだ。 ・バッタではなく、ゴキブリやハエなどの害虫を餌にしたらいいんだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・飼う限りは餌を与えなければならない。肉食なのだから、それなりのえさをあげる必要がある。 ・バッタをあげるのがいやなら、カマキリを飼わなかったらいいんだ。 ・生き物を飼うという意味や、責任をもっと考えるべきだ。 |
| <p>⑩</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなカッコいい昆虫が日本でも増えていくことはいいことだ。 ・外国産クワガタは、店で買ったから高いから野山で採れたらうれしい。 ・日本のクワガタと交配して、どんな新しい種類のクワガタができるか楽しみだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本に、もともといたクワガタムシが追いやられたり、雑種ができてしまう。 ・その土地には、その土地の植物や動物が生活する。人がよそから持ち込むのは自然のバランスを壊すことになる。 ・まず第一に、昆虫を高い値段で売り買いすることが間違っているんだ。 |



コラム 環境教育とディベート学習

環境教育に学級討論会を取り入れる場合、前述のようなプログラムが最適ですが、本格的なディベート学習を取り入れたい方は、下記の資料等を参考に研究してください。

なお、確かにディベートは環境問題を取り扱う学習に有効であると思いますが、扱い方を誤ると大変難しい部分が出てきます。十分に研究し、検討された上で、環境学習の一つの手段として応用されるとよいでしょう。

総合的な学習の時間で〈話し合って決める〉スキルを育てる『みんなのディベート授業』
樋口裕子・著（2003年）日本文教出版

ファックス資料 総合学習に役立つ『小学校/ディベート授業がてがるにできるモデル立論集』
全国教室ディベート連盟編（1999年）学事出版

DVD教材テキスト『ディベートで学ぶエネルギー問題』総合的な学習の時間を活用して
藤川大祐監修（2005年）全国教室ディベート連盟東海支部